



相談コーナーの消費生活コンサルタント

消費生活センター

～日々の暮らしを見直してみませんか～

私たちの暮らしは、今、大きく変化しています。情報入手や商品購入の方法は、インターネットの普及で多様化し便利になった反面、非常に複雑になりました。食品の安全については、さまざまな問題が発生しています。また、長年の大量生産・大量消費・大量廃棄の結果、地球環境は悪化の一途をたどっています。そこで、消費生活センターを訪ね、消費生活に関わる問題点とその対処方法などを伺ってきました。

消費生活センターとはどのようなところですか。

消費生活センターは、消費生活に関わる相談窓口として、専門のコンサルタントが問題解決に向けて相談者と共に考え、ときには斡旋を行います。また、消費生活に関する講演会、セミナー、通信講座、出前講座、消費生活展などの開催や毎月実施している「くらしの科学教室」もあります。

センター内には、消費生活に関連する本やパンフレットなどがたくさん置いてあります。パソコンでの情報収集もできます。ぜひ、日々の暮らしに役立てていただきたいと思います。



消費生活センターに置かれているたくさん本やパンフレット

電話や訪問販売などで、商品購入を勧誘された場合に注意することを教えてください。

買うつもりがないときは早めに電話を切りましょう。また、業者名、担当者名、電話番号を聞くことも必要です。あやしいと思ったら「もう電話をかけないでください」とはっきり伝えましょう。訪問販売では、話を聞くと断ることが難しくなるので、「お断りシール」を玄関などにはるのもお勧めです。また、一人暮らしの高齢者をターゲットにして高額商品を販売する業者もいますので、こうしたときは、契約する前に身近な人や消費生活センターに相談するようにしてください。

地球環境の悪化が深刻になっています。環境に配慮した消費生活についてのアドバイスをお願いします。

今、私たちにできることは、3R（リデュース〔廃棄物発生抑制〕・リユース〔再利用〕・リサイクル〔再生利用〕）に尽きます。一人ひとりがライフスタイルを見直して、身近なことからエコを考えてみてはいかがでしょうか。例えば、商品購入時には、今必要か、代用品がないか、長く使用できるかなどを考慮し、家電や自動車は省エネタイプを選びましょう。使用済みのペットボトルや紙パックは、スーパーなどに設置されているリサイクルボックスに入れましょう。水や電気などの使用はできるだけ控え、健康被害にもつながる化学物質を含む製品については、その影響も知っておきましょう。

消費生活センター TEL624-1872

消費生活相談専用電話 TEL 624-1999
月～金曜日 午前9時～午後4時30分
〒567-0888 茨木市駅前4-6-16
市民総合センター（クリエイトセンター）内

1日どのくらいの相談があるのですか。また、どのような相談内容が多いですか。

1日約10件、年間では約2,500件の相談があります。最も多いのは、不当・架空請求に関するもので、インターネットや携帯電話のサイトを利用した後に、高額な料金を求められたケースがありました。

また、フリーローン・サラ金、不動産賃借、電話機・電話サービス関係、エステティックサービス、クリーニングなどでのトラブルの相談も多いですね。

近年、健康への関心が高まる中で、健康食品の購入に関わる相談も増えています。

商品の品質や食の安全について、どのようなことに気を付ければよいのか具体的に教えてください。

インターネットでの商品購入は、実物とのイメージの違い（材質、大きさ、色合いなど）でトラブルになることがありますので、気を付けましょう。クリーニングでは、シワになった、生地が破れた、色落ちしたなどの苦情が寄せられています。出す前にあらかじめ状態をチェックし、伝えることがあれば事前に伝え、受け取ったらすぐに仕上がりを確認しましょう。

加工食品の購入時には、賞味期限や消費期限、食品添加物の用途、アレルギー物質などの表示をよく確認して購入しましょう（生鮮食品には原産地や天然・養殖の区別、消費期限などの表示があります）。

健康食品については、自分にとって摂取が本当に必要かどうか医師に相談してみるのも一つの方法です。

ぶらり散歩

時間に余裕ができたとき、ふと気分転換をしたくなったとき、散歩に出かけてみるのはいかがでしょうか。時間や場所にこだわらず、心の赴くままに歩き、ゆったりと周りの景色を楽しむ…。それが散歩の醍醐味ではないでしょうか。

というわけで、今日は西河原公園に心が向きました。その後、安威川の河川敷にもちょっと行ってみました。



北の公園の端からゆっくりと南に向かって歩いてみましょう。

おっと、早速、見事な小鳥を見つけました。何と、カワセミです。スズメほどの大きさで、背中が青緑色でお腹が橙色。頭に斑点があって、とにかく美しい。管理小屋の裏にある水門（この小川は安威川から水を取り込んでいる）で、しばらく木の枝に止まっていたかと思うと、ぱっと飛んでいってしまいました。きれいな羽の色から、溪流の宝石と呼ばれ、すばしっこいのが特徴。

公園の大きな木は落葉樹が多く、冬のこの時期には葉はほとんど残っていませんが、たくさんの鳥が木々の周りを飛び回っています。セグロセキレイも、落ち葉の上に舞い降りてきて、盛んにエサをついばんでいます。

葉が薄灰色の樹木を見つけました。何の木かとぐるりと回って案内板を見ると、オリーブの木です。姉妹都市の関係にある小豆島町から贈られたものだそうです。いつ実がなるのか見てみたいものです。



水門付近のカワセミ
(円内の写真は「日本野鳥の会大阪支部」提供)



連絡通路と壁に飾られている陶板画



連絡道を通って南の公園に向かしましょう。連絡道は国道の下に造られています。長さ25メートルほどの通路ですが、壁には市内の小・中学生が水と緑をテーマにして描いた陶板画18枚が飾られています。一つひとつを見てみると、それぞれの絵に夢や希望があり、楽しさにあふれています。こんな工夫を凝らしたトンネル通路に拍手喝采！

トンネルを抜けると森が広がります。小川や小道があり、サザンカ、アオキといった中低木が茂っています。ムクノキ、クスノキなどの大木がそれらを含み込むようにそびえ立ち、その雰囲気はおとぎの国の森を彷彿とさせます。小川には小さな橋が架かり、近くには東屋があります。歩いているうちに頭も体もすっきりリラックスしてきました。

ところで、カワニナってご存じでしょうか。小さな巻き貝で、ホタルの幼虫はこれを食べ成長するそうです。この小川はゲンジボタルの名所で、市では幼虫をある程度成長させてから放流するのだそうです。川底をのぞいてカワニナを探してみたいのですが、冷たそうな水がさらさらと岩の間を流れているだけ。ところが、運良く通りかかった公園の管理人さんに、川底から拾ってもらい見せていただきました。初夏、ホタルの乱舞が楽しみですね。

古い石橋、「西河原大橋」が見えてきました。大橋といっても、人が二人すれ違う程度の小さな橋で、昔はその下に水が流れていたのでしょうか。近くにはおもしろそうな遊具があります。大きくて幅の広い滑り台に挑戦してみようかと思ったのですが、子どもたちのように滑り降りる勇気はとてども…。



冬の西河原公園内の樹木



西河原公園を出て、安威川の土手に行ってみましょう。冬の河原は寒くて殺風景ですが、それでも太陽の光は降り注いでいます。ジョギングをする人、魚釣りをする人、水鳥にエサをやる人、体操をしている人などに会います。みんな楽しそうです。川面に視線を移すと、カモが人々に負けないくらい元気に泳いでいます。その横には、大きなサギがじっと動かずに立っています。ふと、空を見上げるとユリカモメが気持ちよさそうに飛んでいます。

さて、今日の散歩はこれくらいにして、そろそろ家に帰りましょう。



安威川に群れるカモとユリカモメ